

# 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 教材活用ガイド【活気づけ編】

保健師のワザの向上を支援するこのシミュレーション学習教材は、科学研究費助成事業 JSPS 科研費 JP15H05103（基盤研究(B) 地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発/研究代表者 岡本玲子/2015-2018 年度）の助成を受けて制作したものです。

このガイドは、教材を**保健師の基礎教育や現任教育で広くご活用していただきたくワザの解説や学習支援の方法を示した**ものです。学生や保健師が、自信を持って保健師活動を展開するための**スキルアップのツール**として、ぜひお役立てください。

## 1. 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 シミュレーション学習教材【活気づけ編】で学べること

この教材は、図に示した「地域の強みを高める公衆衛生看護技術」のうち【活気づけ】の技術を学ぶものです。

2つの動画を視聴、比較し、場面を疑似体験することで、保健師に求められるワザを、実感を持って学ぶことができます。みて・きいて、感じ・考え、ディスカッションすることで学びを深められます。繰り返し体験できるのもシミュレーション学習教材のメリットです。

めざす方向性 **ポピュレーションの最良のポジティブヘルス状態（公衆衛生の向上）**

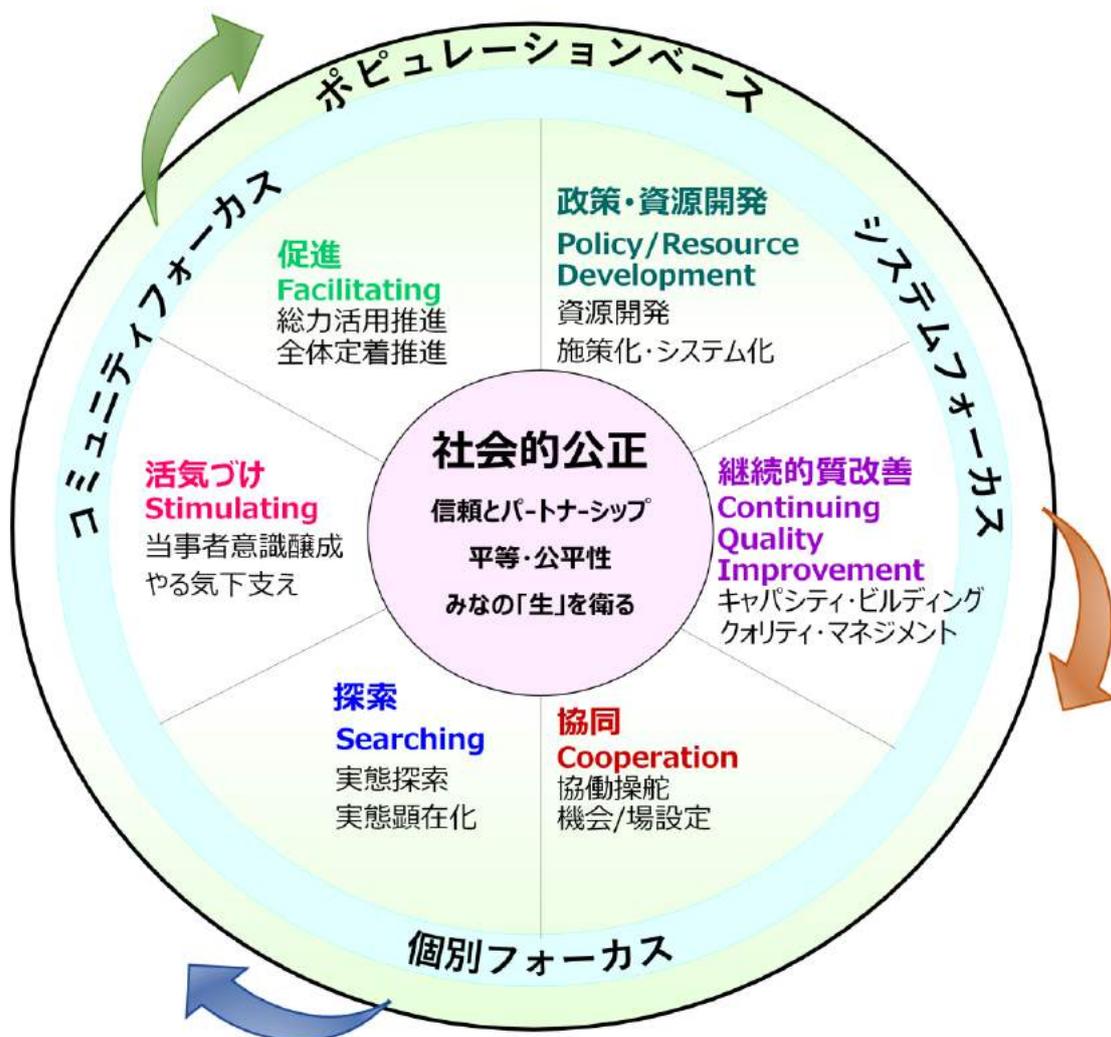


図 1. 地域の強みを高める公衆衛生看護技術

2. ワザ一覧 ～この教材では、これらのワザのうち【活気づけ】のワザ習得に焦点を当てています～

表1. 地域の強みを高める公衆衛生看護技術

めざす方向性		ポピュレーションの最良のポジティブヘルス状態（公衆衛生の向上）	
規範	社会的公正	信頼とパートナーシップ	様々な状況にある住民や地区組織が変容できる存在であることを信じ、常に住民中心に、その意思を尊重する一貫した姿勢
		平等・公平性	いつも地域全体を念頭に置き、健康に影響する格差が生じないよう活動する姿勢
		みな「生」を衛る	Health for All を保障するプロの専門職として、すべての住民の「生(生命・生活・生きる権利)」を衛ろうとする姿勢
枠組み	大ワザ	中ワザ	小ワザ紹介（抜粋）
探索	実態探索	強み発掘	地域の潜在力を探索（連帯・助け合い力など） 現地に入り探索（多角的感知/本音集積/出会い聴きなど）
		課題把握	衛る「生(生命・生活・生きる権利)」の危機を感知 現状の限界を探索
		資源探索	時勢に好適なパートナー/サービス/エビデンスを探索 資源の移転/導入/活用/普及の可能性を探索
	実態顕在化	見える化	特定集団の全数ヒアリングを横断的に分析し文書化・図表化 経年調査で縦断的にデータの推移を分析し //
		実在見せ	プロット地図で全容を提示 当事者の直聴きで実情を開示（生の声）
		要因見せ	実態の背景にある促進・阻害要因と、相互の関連を明示 // 諸事情の関連を明示（関連図・フロー図など）
活気づけ	当事者意識醸成	フレゴト（我ら事）共有	地区のリスクを提示し全体の課題としての気づきを引き出す 「みなさんはどう？」と、ご一同発問によるフレゴト意識の深化
		みなで/ともに/楽しく浸透	みなで(全員主体)/ともに(交流・参加)/楽しく(明るく前向きに健康増進)の意味を浸透させ、価値の体得を推進
	やる気下支え	発起アシスト	やる気点火（成果モデルの Before・After 提示など）、やる気ヒートアップ（スモールステップ勸奨など）で始動をプッシュ
		元気バックアップ	継続への元気増幅（成果の見せ合い、相互承認など） 共生を可能にするプラットフォーム設置（繋がり実感共有など）
促進	総力活用推進	担い手拡充	好人材のリクルート、潜在能力の開花を支援 推進役の全域配置
		相互寄与見せ	努力への返礼を見える化し、負担を楽しみ・やりがいに転換 （互いの貢献を認め合う・讃え合う機会の設定など）
	全体定着推進	地域普及	口伝えによる元気拡散を依頼 全地区を巡回し呼掛け・伝達
		主導化応援	先例や仲間につなぐ架け橋支援、予算継続のための画策 要実行事項や見通しの明示（文書化・媒体化支援）
協同	協働操舵	成長系協働	事例中心の協議を積上げて、成長を伴い「協働知」を創出 素人・専門家/老・若/障害・健常が混じるも対等の常態化
		発展系調整	多機関特性・相違・諸事情の相互理解を促進し、回を重ねて合意へと発展的に調整、上位目標・資源情報の一元化を伴う
	機会/場設定	ポジティブヘルス転換	ネガティブではなく、ポジティブヘルスに転換する臨機応変の機会/場設定（行き場所/思い共有の場/対話推進機会など）
		実現固め	意思決定段階の体系化を基盤とした実現 意思決定者/実務者/ワーキングの層化会議設定
継続的 質改善	キャパシティ・ビルディング	キーパーソン開化	地域全体波及の推進役養成体制の構築・経年的能力開発 実情の対面見せによる専門人材参入の動機づけ
		成解合作	活動展開を基盤に、住民・関係職種が協力して課題の解決・改善に向けた「成り立つ解」「協働知」を導く過程で力量を獲得
	クオリティ・マネジメント	全体質点検	地域別資源比較による充足・不足資源の見える化 支援過程別の指針提示・実用性実証・継続成果評価
		ボトムアップ改善	多機関協働ワーキングによる改善策の上位への提案 （所内・多機関/下位・上位等）段階的合意形成
政策・ 資源 開発	資源開発	資源化	未整備資源の把握、資源化パートナー/情報/予算の確保 既資源の潜在力/適用・変容・試行可能性を判断
		活用促進	共同活用化・広域活用化の促進 需要と供給の連結調整（広報/適正評価など）
	施策化・システム化	優先度明示	根拠見える化に基づく最優先課題の明確化 施策化・システム化の方向性の明確化
		決定・構築・整備	意思決定の土台整備、既制度・事業の改正 施策化・システム化の実現と継続体制の整備

### 3. 入手&視聴サイト

地域の強みを高める公衆衛生看護技術 シミュレーション学習教材【活気づけ編】サイト  
<http://www.phnspace.umin.jp/tech.html>

入手&視聴できるものリスト

- 1) 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 教材活用ガイド【活気づけ編】（本票）
- 2) 動画教材\_シナリオ1\_活気づけ\_みて・きいて、実感持ってワザ・ゲット！（約9分）
- 3) 動画教材\_シナリオ2\_活気づけ\_みて・きいて、実感持ってワザ・ゲット！（約17分）
- 4) ワークシート（シナリオ付き）：気づき欄、学び欄、アクション欄、リフレクション欄
- 5) 役割演技\_小道具：名札、シナリオ1資料、シナリオ2資料（レジメ、グループワーク関連）

### 4. 教材の活用方法

ここでは、この教材を活用する方法の例を、「自己学習」と「授業・集合研修」に分けてお示しています。

#### 【自己学習での活用】

- 地域の強みを高めるワザがイメージできない保健師や学生が、みて・きいて・実感して学びたい時に視聴
- 指導者・学習支援者が、保健師や学生にワザを伝える前に、事前に自身の考えをまとめるために視聴 など

■具体例（個人が自分の自由意思で学習するもよし、指導者・学習支援者が宿題やレポート課題として課すもよしです。）

目的：1. 地域の人々のポジティブヘルスを推進するために、地域の強みを高める公衆衛生看護技術を学ぶ。

2. なかでも、住民主体の活動の開始・継続の過程を支援する【活気づけ】のワザを視聴し、実感・イメージを持つ。

方法：

- 1) サイト <http://www.phnspace.umin.jp/tech.htm> にアクセスし、ワークシートをダウンロード、説明を読む。
- 2) シナリオ1を視聴しワークシートのシナリオ1 気づき欄に記入。引き続きシナリオ2を視聴しシナリオ2 気づき欄に記入。
- 3) ワークシート左のシナリオ1と右のシナリオ2の内容を比較し、異なる点からこのワザのポイントを導いて、学び欄に記入。
- 4) 可能であれば、もろもろの行動変容や意思決定、グループ支援などに関する理論を調べ、それらのポイントを理論で説明することを試みる。またさらに、その学びを誰かに話し、フィードバックを得る。
- 5) 学習のあと、自分がこのワザをいつどのような場面で使うか、すると今までと比べて何がよくなりそうかをアクション欄に記入。

#### 【授業・集合研修での活用】

- 学習支援者(教員)が、保健師学生への「ヘルスプロモーション」や「地区活動」に関する講義・演習に用いる場合
- 指導者(担当者)が、現任保健師研修（新人保健師/中堅保健師/指導者/管理者）に用いる場合 など

#### ■反転学習の具体例

目的：3. 「ヘルスプロモーション」や「地区活動」の展開に関する講義・講演に付帯する技術習得演習として設定する。

4. 上記目的1. 2. に加え、このワザを実際に取り入れた活動を計画立案し展開、習得をめざす。

方法：

- 6) 基礎知識の提供と動機づけにあたる講義後(15分程度)、次回授業の事前学習として、上記方法1-3)を課す。
  - 7) 4-5人グループで各自が事前学習で気づいた内容を出し合い、このワザのポイントをディスカッションし、まとめる。
  - 8) グループ毎に発表し、板書等で全体に意見が見える化する。この際、7)をKJ法のようにして8)で貼りだしてもよし。各グループがPCでA4 1枚にまとめる方式にして共有してもよし。見える化の方法は状況に応じて工夫してください。
  - 9) 学習支援者がデブリーファールとなり、ポイントを押しさえる。この際、行動変容や意思決定、グループ支援ほか各種理論を活用する。(デブリーフィングのポイントに関するご質問があれば、末尾のメールアドレスにお問い合わせください。)
  - 10) 最後に上記方法5)を各自行い、グループ内で発表、メンバー間でポジティブフィードバック交換を行う。最後にリフレクション欄に記入。時間が無い場合はこの部分をレポート課題とし、学習支援者より個々にフィードバックするとよい。
- ★7-10) は状況に応じて1コマでも2コマでも実施可。2コマで行う場合は、9)のあとグループで、メンバーに配役し2つのシナリオの役割演技（声を出して読み合わせ）を意味をかみしめながら行くと、より実感が湧き、学びを深められる。

#### ■集合研修の具体例（目的は上記1-4に同じ）

- 11) 基礎知識の提供と動機づけにあたる講義後、上記の方法2)を実施（視聴は全体・ワークは個々に実施。約40分。ワークシートは予め準備しておくこと。）
- 12) 上記方法7-10)を実施。7-8)で約1時間、9-10)は状況により1-2時間。

## 5. 用語の定義

用語の定義は以下のとおりである。

**地域の強み Strength of Community** : ポジティブヘルスを推進する地域の潜在力 potentials of the community promoting positive health (岡本,2019 図2)

**ポジティブヘルス Positive Health** : 病気や障害などの「負の状態 Negative の解消」ではなく、よりよく生きる方向に地域が動く「正の状態 Positive への増進」を意味する (Downie et al.,1990)

**公衆衛生看護技術 Public Health Nursing Art** : 社会的公正を規範とし、公衆衛生の向上に寄与するポピュレーションの最良のポジティブヘルス状態 (より健康で安寧な方向) をめざして、個人のみではなく人々, コミュニティに働きかけ, その力量形成や環境改善を図る目的意識的な行為である (岡本,2019)。

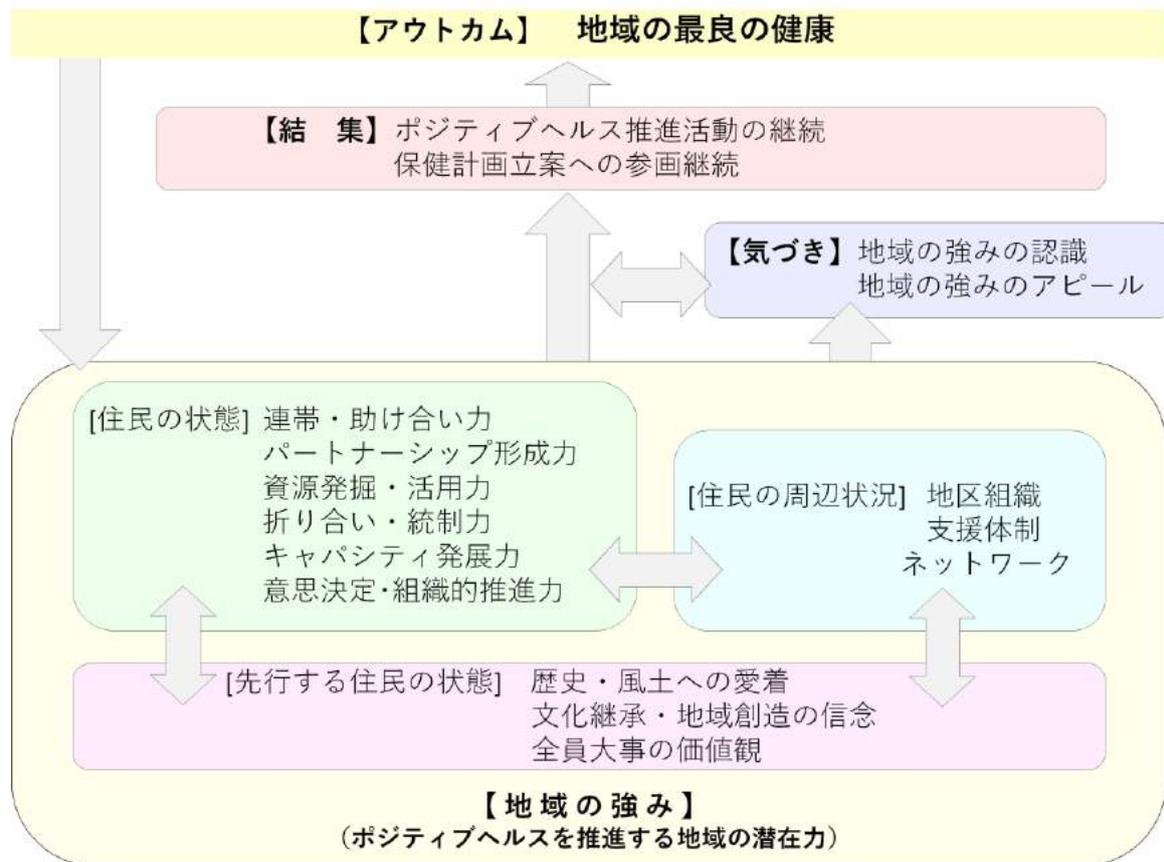


図2. 公衆衛生看護が関わる地域の強み

### 【文献】

- ・ 岡本玲子編著. 地域の強みを高める公衆衛生看護技術. 医歯薬出版.
- ・ 岡本玲子、他. (2019): 公衆衛生看護が関わる地域の強みとは—文献の分析による概念化—. 日本公衆衛生看護学会誌. 8(1), 12-22. doi:10.15078/jjphn.8.1\_12.
- ・ Okamoto R., et al., (2019): Public Health Nursing Art to Enhance “Strength of Community” in Japan. The Open Nursing Journal, 13(1), 177-185. doi:10.2174 / 1874434601913010177.

### 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 教材活用ガイド【活気づけ編】

発行: 2019年3月31日

科学研究費助成事業: JSPS 科研費 JP15H05103

基盤研究(B) 地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発/研究代表者 岡本玲子/2015-2018年度研究班(2019年度現在): 岡本玲子(大阪大学) 合田加代子(甲南女子大学) 小出恵子(四天王寺大学) 岩本里織(神戸市看護大学) 塩見美抄(兵庫県立大学) 草野恵美子(大阪医科大学) 蔭山正子(大阪大学) 髯高英代(甲南女子大学) 田中美帆・時政舞(大阪大学・博士後期課程) 規家美咲・多田碧樹(大阪大学・博士前期課程)

問い合わせメールアドレス: 事務局 office.reiko@sahs.med.osaka-u.ac.jp 代表 reiko@sahs.med.osaka-u.ac.jp